

一般社団法人 日本インクルージョン協会

『2025万博』に向かって学生・若者を活性化し、『働きづらさ』の改革改善をサポートする活動

(産学官と連携して、障害者・ひきこもり・メンタルダウンを含む、あらゆる若者の可能性を引き出す社会実践教育を広げる)

少子高齢化で労働人口不足の只中にある日本においては、引きこもり、メンタルダウン、障害者といった多様な人材の社会進出が喫緊の課題であります。

とりわけ、障害者についてはB型就労移行支援での人材滞留やミスマッチによる離職が課題となり、企業は法定雇用率の達成に苦戦している状況です。また、社会制度の隙間からこぼれ落ちてしまった人が「引きこもり」と総称されるブラックボックスの中に入っています。

ひとりひとりの若者が抱える課題は多様ですが、社会参画を通じて個々人の可能性が引き出されてくることは間違いありません。「障害」「ひきこもり」といった言葉を超えて、「2025年万博 いのち輝く未来社会のデザイン」を探究していきます。

日本インクルージョン協会は、一人一人の人材がお互いに強みを発揮し補完し合う社会（インクルージョン）の実現を目指し、個々の人材へのアプローチから就労現場とのやり取りまで一貫したサポートを行う『ハブ組織』としての使命を果たします。



代表理事 位高光可氏

元京都府社会福祉協議会会長
元京都経営者協会会長



[活動拠点]

京都市上京区丸太町通黒門東入
葦屋町536-1 元待賢小学校3階

社会の危機的情況

『少子超高齢化の時代』

「急激な人口減少」
2050年には1億人を切り、
2100年には4000～6000万人へ

『8050問題』

2017年版「子供・若者白書」
2016年の15～39歳の
若年無業者数は、約77万人。
親が80歳、引きこもりの子が50歳

『国家財政の危機』

福祉予算が毎年1兆円増加している。

『職場のメンタルヘルス問題』

うつ病など心の不調で休職した社員の約40%は、休職中や職場復帰後に退職している。企業のコスト負担が増加し続けている。



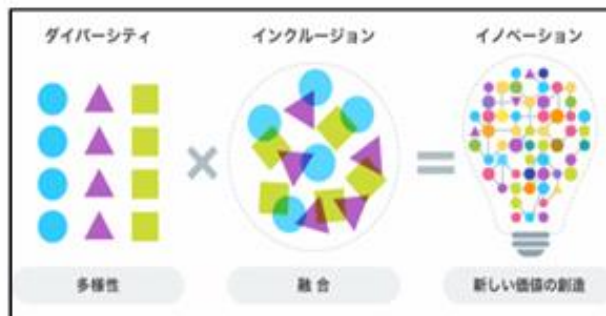
引きこもりからの脱出

職場風土の改革サポート

社会問題解決のカギはインクルージョン化にあり！

誰でも社会に参画・貢献する機会が与えられ、それぞれに特有の経験やスキル、考え方が認められ、更には相互補完関係のある社会実現をめざします。

多様な人材の活躍、活発なコミュニケーションによって、企業は新しい価値を創出し、経済が活発化します。



〈10%目標宣言〉

京都府や京都市において、推計10000人以上の若者が引きこもり状態と予測されています。

私どもは《京都府・京都市の引きこもりの若者10%脱出》を目標に行政、企業、大学や地域社会の連携の中で引きこもっている若者の〈活性化〉に挑戦する決意であります。



日本インクルージョン協会は、
（株）革靴をはいた猫を支援しています

日本インクルージョン協会 HP



<https://bit.ly/3phRzD1>